

安全衛生管理の取り組み

安全衛生基本方針と安全衛生行動計画

当社は2001年4月に「安全衛生基本方針」と「安全衛生行動計画」を策定いたしました。

安全衛生行動計画は、安全衛生基本方針に則って具体的に定められ、この計画に沿って安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)の導入も、ほ

ぼ順調に整備が進められております。

また、毎年年末には1年間の安全活動と安全成績を解析して総括し、その結果を元に、翌年の「全社安全基本目標と重点実施事項」を決定するという取り組みを継続しております。

2007年 全社安全基本目標

●全社安全基本目標

- 個人で：「KY活動で、危険への感受性を高める」
- 職場で：「日常活動で、OHSAS18001を活用する」

●基本目標を達成するための重点実施事項

- ①いつでもどこでも「作業変化点KY」による「危険予知(KY)」をし、指差呼称で安全確認をする。
 - 一設備への「標示KY」、作業開始時の「重点KY」、作業中の「作業変化点KY」をしているか、させているか
 - 一部下への「問い掛けKY」や、定期的な危険予知訓練(KYT)を実施しているか、させているか
 - 一非定常・臨時突発作業では必ず、危険予知(KY)をしているか、させているか
 - 一機械を止めて点検する、回転体・動いている機械に手を出さない、安全柵・カバーの完備、指差呼称で確認しているか、させているか

②OHSAS18001による安全衛生活動を開始する。

- 一KY活動をシステム(仕組み)に組み入れてPDCAを廻しているか
- 一KY、HH、安全バトロール等を安全リスク評価に結び付けているか
- 一請負業務の安全管理方法が順法であるか、規定は整備されているか、確実に実施されているか
- 一未熟練者、協力会社社員の教育指導は繰り返し行われているか
- 一KYT、指差呼称、HH、3Sの教育が行われ、作業中に実践しているか、させているか

労働安全衛生マネジメントシステム

当社では、OHSAS18001に基づく労働安全衛生マネジメントシステムを、「安全で働きやすい職場環境」を作り上げる仕組みとして労働安全衛生計画に織り込み、2006年度末までに三井金属グループの全所社で構築することを目指しておりました。

若干の遅れがありますが、2007年9月末現在、35所社の構築が終了しており、今年度中には対象とする37所社全ての構築が完了する見込みです。

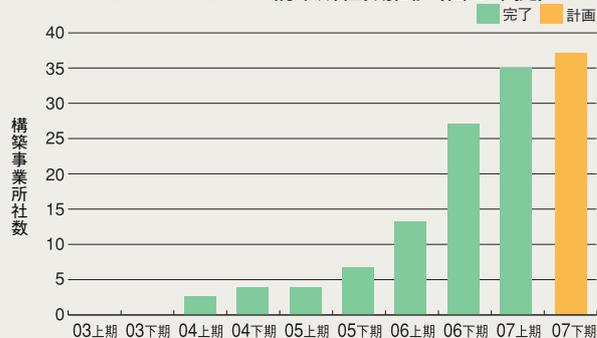
労働安全衛生関連法研修会と安全監査

労働安全衛生法令順守を推進するため、2004年から全所社を対象に労働安全衛生関連法の研修会を開催しております。

2006年度からは現場担当者(係長、作業長層)を対象に、自身が直接関わっている労働安全衛生法の理解を目的に、環境関連法令と合わせ事業場での開催を実施しております。

また、リスクの高い所社においては毎年1回、最低でも2年に1回は全所社を回り、安全監査を実施しております。現地ではリスク評価、危険予知、ヒヤリハット、等の安全活動の実施状況、労働安全衛生法を順守した設

OHSAS18001構築所社数推移(含む準拠)



2007年9月末現在で

吉野川電線(株)、三井串木野鉱山(株)、並崎事業所、(株)エム・シー・エス、薄膜材料(事)、(株)大井製作所/本社・石川・九州、セラミックス(事)、神岡部品工業(株)、パウダーテック(株)、特殊銅箔(事)、バーライト(事)、奥会津地熱(株)、日比・玉野製錬所、三池製錬(株)、彦島製錬(株)、竹原製錬所、神岡鉱業(株)、総合研究所、日本イトリウム(株)、触媒(事)神岡工場、MESCO、三井金属九州機工(株)、三池レアメタル工場、日本結晶光学(株)、八戸製錬(株)、MINDECO(本社)、計測システム(事)、愛知計装(株)、日本メサライト工業(株)、三井研削砥石(株)、(株)MTR、MINDECO石見鉱業所、庄延加工(事)の35所社が構築完了済

備であるかの確認、各所社の安全成績向上のための助言、支援を実施しております。

OHSAS18001を構築した所社に対しては、監査員を1名増員し、

従来のパフォーマンス監査にシステム監査を加えて実施しております。



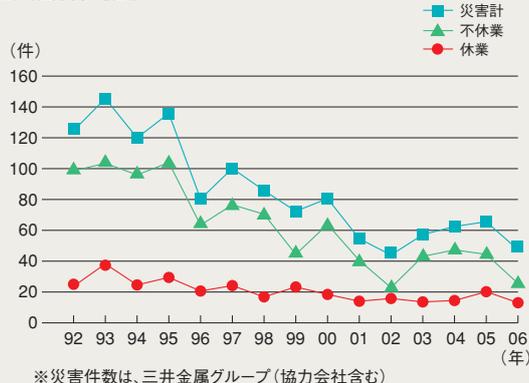
安全監査の風景(三井金属九州機工(株))

安全成績

2006年の全社災害件数は49件で、前年より減少しましたが、休業災害が15件と全体の30%を占めています。ここ4～5年間の災害件数は、横ばいで推移しております。

災害の分類では「不安全行動」起因の災害が約85%と例年同様に多く、災害の型別では「挟まれ・巻き込まれ」が最も多い状況です。今年足元の問題としては、「挟まれ・巻き込まれ」の災害、また「50歳以上」の災害が増加傾向にあることが挙げられます。

全社災害件数推移



安全の取り組み

三井金属グループ各所社では災害予防(先取安全)に重点を置いて取り組んでおり、リスクアセスメント(RA)を実施し、リスクの大きい不安全状態にある設備を改善すると共に、危険予知(KY)活動を取り入れて不安全行動起因の災害を低減する活動を実践中であります。

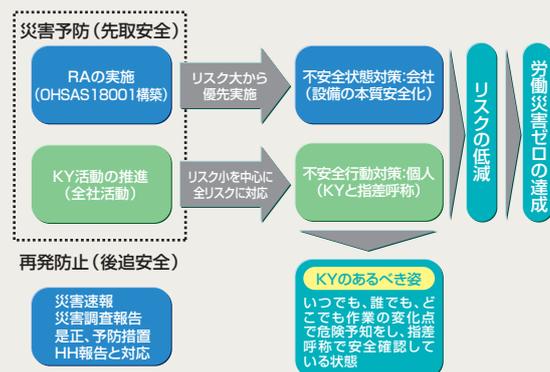
2006年は、特に4R-KYT(危険予知訓練)に重点を置き、全員教育を目標に教育を実施し、間接部門も含め約80%まで終了しました。さらに継続するとともに、「いつでもどこでもKYと指差呼称の実行」を目指し、全員参加の取り組みをしております。

今後は、KY活動等の成果を発表する機会を設ける等、お互いに刺激を受け、活動の活性化に繋がる取り組みを計画しております。

各所社および本社では、安全意識の向上を図るため、「目に訴える安全の仕掛け」を展開し、全社統一の「安全基本ルール」や「安全最優先」の大型掲示板の標示、災害発生場所の標示、横断歩道や階段での指差呼称項目(右ヨシ左ヨシ、手摺り持つヨシ)の標示、安全パトロール時の赤・黄色のチョッキ着用等を実施しております。

さらに、所社によっては、ベル・パトロール、定時の安全放送等、「耳に訴える安全の仕掛け」にも工夫を凝らしております。

災害予防の取り組み



安全基本ルールの標示(三池製錬(株))



安全最優先の標示(彦島製錬(株))